

歴女がゆく

重要文化財

烏帽子形八幡神社本殿

発見！私のイチ押しパワースポット VOL. 4

室町時代

昭和になって修理復元された本殿は色彩美しく、見ごたえがあります。

見どころ ZOOM UP! +

かえるまた 蓐股

蓐股とは、梁や桁の上に置かれた山形の輪郭をした部材。本来は、支柱としての意味があったが、次第に装飾化した。蛙がまたを広げたような形をしていることから、この名前になった。

烏帽子形八幡神社本殿は、烏帽子形山の東側斜面中腹にあり、入母屋造檜皮葺で桁行3間、梁間2間の規模があります。各部材には色とりどりの美しい彩色を見ることが出来ます。本殿は、文明12年(1480)に建立された事が棟札の墨書によって明らかになっています。室町時代後期にあたるこの時期は、文明9年(1477)に応仁の乱が一旦の終結をみた時期ですが、各地ではまだ戦乱が続いていました。神社の背後には、平成24年1月24日に国史跡となった烏帽子形城跡があり、この城は応仁の乱の原因の一つとなった河内守護職を務めた畠山氏の内紛でも使われました。

周囲に茂る木々のおかげで、長い石段も苦になりませんでした。

境内にはおだやかな空気が流れ、のんびりと参拝できます。

緑が多い烏帽子形八幡神社は夏も比較的涼しいスポットです。

今月の歴女

鈴木志織さん

大学では歴史学を専攻し、神社について学びました。社寺とは、その地域の歴史と文化が凝縮された場所。烏帽子形八幡神社でも、ここにしかない歴史の歩みを感じることができました。



河内長野駅からバスで「郵便局前」下車西へ徒歩5分

文化財トリビア④ 本殿の地鎮具

昭和40～41年の本殿保存修理工事の際に、床下から土釜と15世紀に作られたとみられる多数の小皿が見つかりました。これは棟札に記された建立時期と一致します。これらの土器は社殿を建立する時の地鎮のために使われたものと考えられます。



※本紙6月号の文化財トリビアで「釈迦が弥勒として現れる」としていましたが「弥勒が現れる」の誤りでした。お詫びして訂正します。

☆この広報紙は4万8400部作成し、1部あたりの単価は29円です。毎月4日までに広報紙が届かない場合は、配送業者＝株式会社ダイコク(☎0120-603-912、土曜・日曜・祝日を除く)へ。

